

社会への持続的な貢献に向けて

SDGs達成への取り組みで、より“安全・安心”を追求

フジテックでは、2020年3月期からスタートしている中期経営計画“**Innovation, Quality & Speed**”において、SDGs達成への取り組みをコーポレート戦略の柱の一つとしています。

当社は「人と技術と商品を大切に、新しい時代にふさわしい、美しい都市機能を、世界の国々で、世界の人々とともに創ります。」という経営理念のもと、グローバルな事業活動によって各国の振興と経済発展に貢献し、世界の人々と文明・文化を相互理解し、共存共栄を図っていくことを目指しています。

実際、都市の発展には高層ビルが必要であり、これは、エレベータやエスカレータがなくては成り立たないものです。こうした社会インフラは世界中で必要とされており、その中で、より“安全・安心”で快適な生活を皆さまに提供することが私たちの使命です。これらの事業活動は、SDGsの開発目標に沿ったものであり、フジテックはグループ会社を含め、社員一同が誠実に仕事に取り組むことにより、SDGsの達成に貢献するものです。

今後は、活動目標を数値化し、KPIとして開示すべく準備を進めています。

【コーポレート戦略】SDGsに対する取り組みテーマ

テーマ	事業内容	環境・社会とのつながり
コーポレート・ガバナンス強化	・ 内部統制システム有効稼働 ・ リスクマネジメントシステムの有効稼働	・ フジテックの諸理念を誠実に実現
デジタル化推進	・ 業務システムの連携、統合、自動化 ・ AI、IoT等の活用によるサービスの自動化・QCD最適化	・ 質の高い社会インフラを整備 ・ 業務改革で働き方改革
環境負荷低減	・ ENコードに準拠 ・ 保守、モダン化の推進 ・ ロジスティックの改善	・ 素材は環境規制に高度適合 ・ 最新技術により省エネ実現 ・ 故障復旧出勤、ロジスティックの改善で環境負荷低減
グローバル人材育成	・ エクスペリエンスセンター ・ 東京、シンガポールでサービス品質向上につなげる人材育成	・ “安全・安心”の追求による質の高い社会インフラを整備

デジタル化推進による業務効率化と働き方改革

人工知能(AI)による故障の予兆把握や、モバイル端末による現場での作業効率化を推進。人をAIで補完するハイブリッドな姿を実現し、経済成長と働き方改革を両立します。



【目標8】 働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長、すべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



グローバル人材育成による“安全・安心”な社会インフラの構築

フィールドエンジニアの人材研修施設「エクスペリエンスセンター」をシンガポール(2019年6月)、インド(2019年8月)、東京(2020年10月)に開設。据付・メンテナンスの技術力を強化し、品質向上を図る人材育成を推進するとともに、“安全・安心”の追求により、質の高い社会インフラの整備を実現します。



【目標9】 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る



リニューアル促進で環境負担を低減

既設エレベータをリニューアルして最新機種に替えることで、電力消費量45%低減が期待できるというデータがあります。これにより、省エネルギーや、CO2排出量の削減が見込めます。



【目標11】 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする





“安全・安心”への取り組み

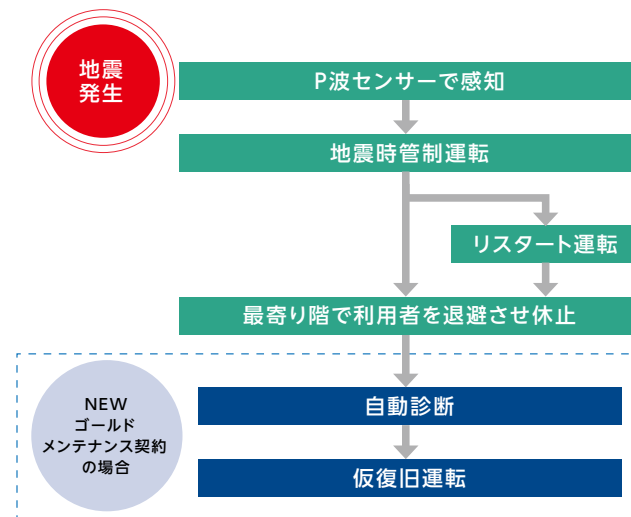
セーフネットセンターの設置

フジテックは、お客さまの“安全・安心”を見守る「セーフネットセンター」を東京と大阪に設置し、日本全国のエレベータを対象に、24時間365日休みなく運営しています。また、大規模地震などの広域災害発生時には、2つのセンターが相互に補完し合う機能を備えています。

エレベータの地震対策

いつどこで起きるかわからない地震への備えは、日々の安全な生活のために欠かすことができません。フジテックでは、地震による利用者とエレベータの被害を最小限に抑えるため、充実した地震対策機能とサービスを確立。「すばやく感知」「閉じ込めを防ぐ」「早期復旧」の3つのポイントで、利用者の“安全・安心”を追求しています。

この「セーフネットセンター」を核とする独自の保全システムは、「緊急時の迅速な対応」と「最適な予防保全」という大きな役割を果たしています。これらのサポート体制により、エレベータ所有者や管理者の方から、「任せて安心」という高評価をいただいています。



安全意識の醸成

フジテックグループにおいて、“安全・安心”は、何に対しても最優先に取り組むべき事業課題としています。当社の事業特性上、命の問題に直結するためです。あらゆる手段を講じて、当社を取り巻く人々の“安全・安心”を守るため、日々、安全意識の向上と徹底に加え、安全を守る技術の開発に努めています。社員の安全確保については、①安全意識を向上させる教育活動の実施、②フィールド現場における安全を確保

するための手順を定めたマニュアル・映像の制作と普及、③ドライブレコーダーなど危険回避を促す機器の活用などがあります。また、当社の事業特性として、研究開発から販売、生産、据付、メンテナンスまで、幅広い職種があり、日常的に接する危険因子がそれぞれ大きく異なります。この点については、①の安全意識を向上させる教育を各部門の業務内容に合わせて行うことで、各人の安全に対する意識を醸成しています。

世界各地で安全教室を開催

フジテックでは、グループ各社でエレベータ・エスカレータの安全な乗り方を教える「安全教室」を行っています。対象は、主に小学校低学年。子どもを巻き込んだ事故はエレベータのドア周りや、エスカレータの乗降口の周辺が多いため、子どもへの注意喚起を目的に実施しています。2018年は中国、日本で計52回実施しました。



環境

グループで取り組む環境負荷の軽減対策

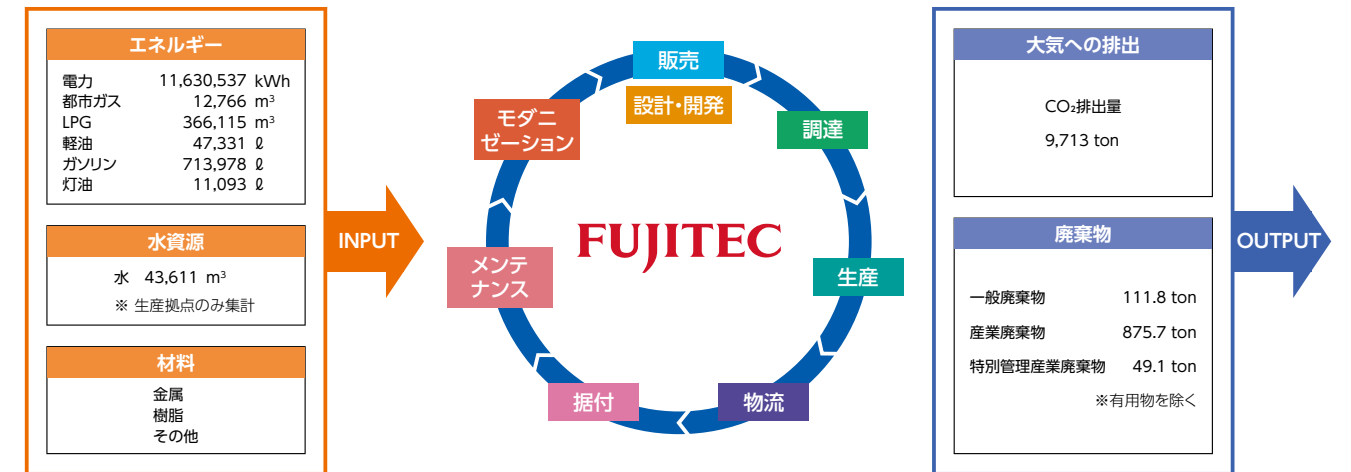
当社は良き企業市民として「事業と環境の共生」を図りながら、持続可能な社会の発展に向けて、環境との関わり方を重要な経営課題の一つとして捉えています。当社において、環境との関わり合い方の指針を示した「環境方針」は、右記7つを積極的に取り組むこととしています。

当社はこれら7つの取り組みを継続的に遂行し、よりよい事業と環境の共生を目指していきます。本方針に沿った取り組みの一つとして、商品ではモダンゼーションの際に既設トラス（エスカレータの機械部を支える鉄骨）を再利用したモダンゼーションメニューなどを開発しています。

主要生産拠点における環境負荷軽減実績

● 環境負荷の総量（2020年3月期）

※対象範囲：日本国内の本社・支社・工場・支店・営業所・サービスセンター



琵琶湖の環境保全活動

フジテックでは、滋賀県で本社工場を稼働していることから、2014年より、琵琶湖周辺のヨシ刈りボランティアに参加しています。ヨシはイネ科の多年草で、水の浄化や湖の生き物の生態系保全に重要な役割を果たしています。冬季に成長したヨシを刈ることで、新しいヨシが丈夫に育つことから、毎年2月と12月に行われるボランティアに参加しており、今後も本活動を継続していきます。





人材育成

働きやすい職場環境づくり

当社グループは、「経営人事理念」「企業行動規範」を定め、その中で働きやすい職場環境について明示しています。「経営人事理念」の中では、「開達な意思の疎通によって風通しの良い組織をつくり、個人として、また組織としての思考次元を高める」と風通しの良い環境について言及しています。また、

「企業行動規範」の中では、「役員・社員個々人の人権と相互のチームワークを尊重し、快適な職場環境の下で十分に能力を発揮できるよう注力します」と定めています。これらの理念や規範に則り、各国の事業法人はチームワークの醸成、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

グローバルな人材育成の取り組み

当社における人材育成の目指すべき方向性を示した「経営人事理念」には、「フジテックに集う人々は、社会人としての人格を磨き、企業人としての能力を高め、開達な意思疎通と、澁刺とした行動力をもって、自己実現を図るとともに、会社

の永遠の発展と繁栄を目指します」とあります。この理念に基づいた人材の育成を図るため、当社ではさまざまな研修カリキュラムを立ち上げ、継続的な研修を行っています。

人材研修施設「エクスペリエンスセンター」を各地に展開

当社グループでは、各エリアの中核拠点にフィールド技術者を対象にした人材研修施設「エクスペリエンスセンター」を設けています。エレベータ・エスカレータの実機に加え、マシンやブレイキなど個々の機器もあわせて設置しています。研修では、実機や機器を使いながら、エレベータ・エスカレータの据付方法、各部の調整方法や規格化されたメンテナンス手法を学べます。また、業務特性上、作業中の危険度が事務職などに比べて高いため、安全に作業を行うための教育を徹底しています。

2019年は、新たにシンガポールとインドの2カ所に「エクスペリエンスセンター」を開設しました。周辺国にあるグループ会社からも、研修者を受け入れ、事業基盤の大切な役割を担う人材の育成に引き続き注力していきます。



土畑 雅志
専務執行役員
南アジア担当 兼
フジテック・シンガポール社長

東南アジアの人材育成とブランディングの拠点に

2019年6月にオープンしたフジテック・シンガポールの「エクスペリエンスセンター」は、シンガポールだけでなく、周辺国を含めた東南アジアにおけるフジテックの人材育成とブランディングを目指した施設です。同社はこれまで高い国内シェアを維持してきたものの、近年では競合各社と厳しい受注競争の渦中にあります。この厳しい現状を打開するために、お客さまにフジテックの魅力を伝え、信頼を勝ち得ることが必要との考えに至りました。そうした考えのもとでオープンしたエクスペリエンスセンターには、ショールームエリアとフィールド人材の研修エリアを設置し、数多くの企業の方々に訪問していただいています。現在、来場者数は1,000人を超える勢いです。今後は、本施設の活用をシンガポールだけでなくとどめず、周辺のマレーシア、インドネシア、フィリピンなどからもお客さまをご招待し、東南アジア全体における人材育成とフジテックブランドのさらなる認知度向上を目指します。

技量を測る技能競技大会を開催(日本・海外)

人材育成の一環として、フィールドエンジニアの技量を競う競技大会を日本、海外で開催しています。日本では、据付とメンテナンスをテーマに、「全国据付・改修技能競技大会」と「全国保守技能競技大会」を毎年入れ替わる形で開催。大会では、これまで培った技能の確認に加え、エンジニア同士の技術交流が図られ、個々のスキル向上の場となっています。海外でも「グローバル・フィールド・エンジニアリング・スキルコンペティション」として、2019年にはシンガポールで開催しました。



過重労働の防止とメンタルケア(日本)

日本においては、社員の身体と心の健康を守る取り組みを行っています。身体面の健康を守るため、部門内における業務負荷の平準化、休暇取得の推奨などに取り組んでおり、これらは主に各部門長がその役割を担っています。また、メン

タルヘルスでは個々人で行うセルフケアをテーマにした「セルフケア研修」とあわせて、各部門長が行うべき対応策をテーマにした「ラインケア研修」を実施しています。

事務所移転でコミュニケーション活性化(フジテック・タイ)

フジテック・タイの2020年3月期受注台数は、2018年3月期比2倍に拡大しました。このきっかけは事務所の移転です。従来の事務所は狭く、現場で業務を行うフィールドエンジニアが休める場所はわずかでしたが、新しい事務所では、フィールドエンジニアが落ち着ける場所を設置。これにより、エンジニアらと他部門の交流時間が増え、スタッフ間の情報交換が活発化しました。現場情報がタイムリーに共有できる環境となったことに加え、各人が抱えている課題も全体で解決できる環境も整いました。この事務所移転によって、お客さまからのクレームが激減したほか、営業活動にエンジニアが同行する機会が増加。お客さまからの信頼の醸成にもつながり、受注台数が伸長しました。



いのちを救う贈り物

フジテックのグループ各社では、継続的に“いのちを救う贈り物”といわれる献血に協力しています。日本では毎年10月に、グループにおけるエレベータのマザー拠点「ビッグウイング」に日本赤十字社が来社され、献血を行います。また、香港でも毎年6月と12月に献血の日を設け、有志が参加しています。

